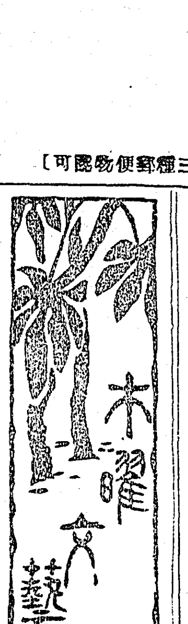
夕刊 磐城新聞
六月十三日發行
定價一ヶ月金六拾五錢
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊



初夏

○太陽もやがて北のかよひ路きはまらん　裏山なべて陽光滿ち溢つ
○素袷のはだへも今日は汗ばみて　息づく山のうすみどりかな
○さつき晴れ泥水とみにぬくもりて　つばらかに咲けり水蓮の花

萩原たけ

土地つ子の親しみ
マルクスの脩田、露西亞文學の原其他

赤井嶽男

殆ど正規の過程を經ないでマルクス經濟學をマスターし、小泉信三その他を相手に多年堂々の陣を張り續け、曾ては新居格などから『日本一のマルクス經濟學者』なる折紙を附せられて其の篤學振りを讃歎された脩田民藏が本郡小川の產で滿足に磐中を出ると山崎淸三さんや、滸水、松村雨醫師などと一緒の第三回生だつた——なんて云ふ事もその人が亡くなつてから初めて知つた人が多い樣なもので、我邦民事訴訟法の權威たる仁井田益太郎博士が淸光堂や關內油店の親戚でその昔山崎與三郎さんなどと同じ平窪の宮塾に通つた人であつたり、本縣刀圭界の大御所大原一國手が上遠野の深山田から出た人だつたりする事は餘り多くの人に知られぬ事柄であるが、それと判ると滿更惡い氣のせぬのが土地つ子の人情である。それ證據に前にお引合ひに出した脩田の齋を『革命家は鞄一つで生活するやうでなくちや嘘だ、なんて云ひ乍ら、女工を搾取した金で出來た大原研究所から月々高等官以上の高給を貰つて居たぢや無いか』なんて云はれると斷じて良い氣持ちではない、そこが土地つ子だ

×

悉うした氣分で微かに誇り度い人物に露西亞文學者原丈氏がある。地方教育界の先輩たる勿來町出身川島氏の男で住吉屋本店老女將の實弟であるから巨人齋天目五段の叔父に當るわけだ愛甥五段氏の如きはその著『靜かな心』の開卷劈頭に登場し愉快な活躍を見せてゐる程である。最初福島民友記者時代に語學上他から入るには最も難事とされてゐる露語を獨習しその深遠な滋蓄と流麗なる譯文は嘗て時事新報時代に於て公にした白夜(アレクサンドルブロック詩集)日本印象記(ゴンチャロフ著)香氣ある花園(ロシヤ現代詩集)等の各譯著に遺憾無く現れ更に創作集の前記『靜かな心』『先驅者』や短編小說集『美と眞實』詩集『草地を踏む』などにも其の非凡な詩的天才を窺ふに充分なるものがある

×

目まぐるしい編輯局裡に而も事務的に弧を操る人で無く、幽處に獨棲して瞑想思索に耽る底の詩人肌な原丈氏は其後新聞社を退き、靜かに讀書に親んで居るとの事であるが、近く發表さるべき圖書堆積裡の收穫を吾人石城つ子の豫め期して待つべきものがあるであらう。突然だが最近氏の舊著を書架の一隅から發見しあのひき緊つた色白の顏に度の強い近眼鏡をかけたどちらかと云へばポエテカル・ジニアスと云つた型の風貌を憶ひ出してつい悃願事を書いてしまつた

雀の卵

小石川傳通會館での民謠作品發表會に、澤渡校の牧泉小濱先生、あの山の中からはるばる上京して自分の作つた『荷揚げ唄』が滿都の聽衆の前に唄はれるのを聞いたが、歸つて來てサテ曰く『ナーニ、僕なんかは体裁のいゝ顏見せだつたよ』と下顎をなでゝござつた。

斷層
郷土文學賞の是非

○先週一中學生君の郷土文學賞の創定といふ、實に可憐なる抱負を拜見した。言ふところはX會賞、美友會賞の樣に、文學趣味の連中の間にも何か設けて貰ひたいといふのだが、賞にニキビ面なる三文ブン士の誇大妄想と云はざるを得ない

○第一は、文學に志す者が、何か奬勵機關がなければ挫折してしまふなんていふ根性が見つともない。文學には文學の道があるではないか、賞をかけて文學を志すなんて沙汰の限りだ。

○第二は、こんな田舍にあつて、郷土文學なんてシャレたものが一体どこにある?。純眞なる中學生君には、器用で詩歌、俳句を作る奴らはみんな文學を解する如く目に映るか知れないが、これは所謂田舍武士、眞の劍法を知らず。こんな連中に創定される賞なんて貰つた方こそ不名譽だ。まづ分不相應の考へは起さず獨り靜かに學問の道を步きなさい。(黒星)

いちご

片寄耿二

いま私の前に、よく熟れた『いちご』が置かれてある。友人から土産に貰つたものである

季節の風に乘つて私の前に現はれた初夏の風景としては、あまりに赤すぎる

私はこの中から生れ出て來た、赤い汁に、ミルクをかけながら、昨日友人と逢つて話しあつたなにがしを思ひ出す

私のやうに、やつきりコスモポリタンに成りかけた人間には、こんなつまらないいちごでも、忘れられた戀情を呼びおこさせてくれるので好ましい

——吾々は吾々の才能の壺を振つてみる、そして一滴もない、だがそれで生活は終つたわけではないだらう、私自身の生活は……

私は眞赤ないちごに、すつかりエキゾチックな氣分に興奮しながら、そんなことを言つたりした

木曜だより

木曜文藝小集。。。。。
△日時　六月十五日午後七時より
△場所　マルトモ喫茶部
△會費　金五十錢

○別項、木曜文藝小集といふのを開いて、寄稿家と愛讀者との文藝的な接觸面を作らうと思ふ。これは謂はゞ、地方の文藝趣味人の集りであつて、久しぶりに文藝座談に花を咲かそうと思ふ。今春は例年の短歌會もなかつたし、文人同志の會合は何もなかつたから、みんな懐かしがつて來て頂きたい。それに初めての試みでもあるから——

○それぞれの人へ案內狀を出そうかと考へてみたが、そうすると範圍が狹められてしまふし、取落ちなどの失禮がないとも限らないので別項の廣告だけにした。木曜文藝欄に關心を持つてゐる人だけでもいゝから最初はそれだけで開きたいと思ふ　(し)

ソノ日〜〜

○中元の團扇を早くも配つた商店があるが、これでいよ〜〜夏が來た氣分を濃くなつた。

小說　誰が殺したか　(43)

今野賢三作
龍造寺膽齋畫

第二の殺人(十三)

新宿一丁目の裏通りへ入つて路次の中にちよつと小粋な玄關構への二階建の家の表札に峰田としてあるのを私立探偵局長星野道夫はじつとみつめて一人頷いた格子戸を無雜作にあけて

『御免なさい』

と二三度聲をかけると暫く音もなかつたが、やつと答へる女の聲がして赤ん坊をだいた三十位の丸髷の女が出て來た、黒襦子の襟のかゝつた着物を着てゐるのが普通の人妻らしくは見ねなかつた、星野はそのおかみさんの姿に彗敏な觀察をはせながら

『お尋ねいたしますが、こちらは峰田さんでしたね』

『はい、手前共が峰田でございます』

『何ですか、ちよつと上つてお話したいんですが……』

『あのう何ですか、貴方はどなたの御紹介で?』

『紹介といひますと』

『紹介があるんですか、ないんですか』

『佐藤さんの紹介です』

星野は實は巧に出鱈目をいつたのであつた、おかみさんはその柔和な表情と佐藤といふ勸め先の名前が、うまくピッタリ合つてゐたのですつかり安心してしまつた

『まあ、佐藤さんの御友達でしたか、貴方は初めてなものですから吃驚したんですよ、さあ、お上んなさい』

星野はこの家は何をしてゐるのか九分通り觀察をつけてしまつた、それにつけても峰山の息子の正常がこういふ女を妻を持てこんな怪し氣な商賣をしてゐるやうとはさすが探偵でも想像することが出來なかつた。

元來星野はこの新宿一丁目の路次の中を尋ねやうとしたのは咲山醫學士と面會して正常の所在を尋づねたいからなのである、咲山としても正常の所在については深く知つてゐた譯ではなく、たゞ新宿一丁目の、これこれの路次の中といふ程度のところであつた、それによつて星野がたづねると咲山の敎へられた邊に峰田といふ表札を見つけたものだから峰山の變名ではないかといふ疑ひを持たないではゐられなかつた、そして訪ねて見るとこれはまた意外どうやら帝都の裏にかくれ何か怪しげな稼業を營んでゐるらしく見えた

探偵的興味は直に湧かないではゐなかつた、そして好奇心をも働かせながら絕わずあたりに目を配つて何氣ないていにおかみさんに案內された

『佐藤さんは近頃ちよつともいらつしやいませんね、どうかしたんですか』

『えゝ、何ねえ、ちよつとその家內の手前具合が惡くなつたもんでしてね』

飽迄も星野は出鱈目をいつた

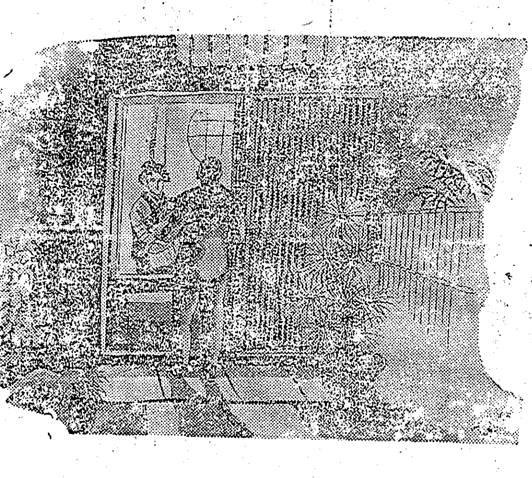
『まあ、あの人も案外下手な人ですね、貴方からよく敎へて上げれやいゝのに』

『はゝゝゝ、僕は佐藤さんに敎へられたんですから。然し細君を操る呼吸は佐藤君より僕の方がうまいかも知れませんよ』

『はゝ、ほゝゝ、うまいつて貴方の顏に書いてありますわ。あ、ちよつとお待ち下さい』

そこへ七三に髮をわけた二十五、六の若い人妻らしい女が今流行の派手な姿でお茶道具を持つてはいつて來た

『ゐらつしやいまし、貴方はお初めてですね、あのちよつと遊んでゐらつしやいませんか』



廣告
新田町の
おでん
かん酒　榮ちゃんで
(十二、三の小年)
(至急募集)

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角
特約店　桑原商店
『取次販賣需ニ應ズ』

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

磐城名物
靈峰羊羹
小川鄕驛前
平屋賣店

移轉改名御披露
從來三丁目北裏通りに於て(マルキヨウ)共榮漆器店名儀にて營業致し居り候處各位の絕大なる御引立に依り御陰を以て業務逐日進展仕り店舖の狹隘と不便を感じ居り候處、今回本通り二丁目に移轉致し……屋號も　近江屋　と改稱仕り營業勉强親切第一主義を一層徹底せしめ度存じ居候へば舊に變らざる御愛顧相仰ぎ度此段移轉改名の御披露に申上候
各國產漆器　家具雜貨類　神佛具一式　文具裁縫具
卸小賣　福島縣平町二丁目
近江屋
店主　横幕仁三郎
電話七一一番
吉凶引物、記念表彰品、賞品、景品類は……特に奉仕的大勉强致します。
(本年高卒小店員募集)

流行ノ下駄ト草履ハ!
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
電話一八一番
(小僧さん入用)

靑葉にむせぶ行樂は……
絕對他に誇る幾多の經驗コース
定評ある旅行者の良きガイド!!
……先づプランを御相談致しませう……
東京鐵道局公認
不二タクシー
電話三一一番
(東北六縣を破・富士五湖箱根伊豆半島一周等は經驗コースとして獨り吾のみ保持するところ……。)

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
(入院應需)

夜間診療
胃腸性病 專門
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)

外科 X光線科 專門
(入院隨意)(自炊の便あり)
平南町
上田醫院
(電話一二九)
病室完備

僅かの氷で非常に早く　よく冷える……!
丸はん冷藏器……
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器……
今年は外壁の絕緣裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました、內部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました、價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製產の爲良品を廉價に御提供する事が出來ます。
丸はん新家庭型……金十五圓より
丸はん新型六號……金七十圓まで
▼各種豐富陳列…御一覽を願ます
株式會社 丸はん商店
營業所　平町三丁目一六　電話三五九番　振替東京二一七二四
製作所　平町新田前　電話一八二番

夏の榮養は鷄肉と卵に
鷄肉　鷄卵商　鳥菊號
高野鳥肉店
平町南町釜屋裏
電話二八六

(入院隨意)
整形外科
X光線科　專門
醫學士　大河內一郎
大河內醫院
平町揺槌小路四(電話五八八番)

骨折　脫臼　打撲　捻挫
小兒骨折　專門
柔道整復師　大河內寅雄
大河內整骨院
(自炊自由)

勉强ノ店(良クテ安イ)
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品建具材
內外銘木　建築木材一式　便利瓦、木羽
織田材木商店
平町紺屋町
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
入院隨時
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山腦病院
院長 醫學士　金森五郎
電話九二五番

小名濱、江名、四倉港に 劃期的の一大施設案
實地調査も之が基準
視察班

内務省では既報の如く東北振興土木事業計畫として港灣、道路、治水につき試案を作成したが、右は過去に於て惠まれざる地方港灣施設に對し劃期的施設を行はんとするもので右試案は港灣等の協會の東北振興計畫として採用されてゐるので、今次同協會派遣の東北地方港灣視察班は本計畫に基き實地調査を遂げんとするもので、之が視察の結果は間接に内務省土木局試案に相當影響を及ぼす事となるので注目されてゐる、郡下關係は次の如くである

重要港灣

地方港灣

小名濱	一、八〇〇、〇〇〇
江名	五〇〇、〇〇〇
四倉	六〇〇、〇〇〇
計	二、九〇〇、〇〇〇

新法に基いて 四倉漁業組合改組
同意取纏めを開始

四倉濱漁業組合では昨年八月實施の改正漁業法並に改正漁業組合令に基き此程同組合を『保證責任漁業協同組合』と改組すべく昨十二日組合員に對し贊成勸誘の書狀を出した

同組合の如く共同販賣、購入並に資金貸付け等の共同施設をなす組合は向後五ヶ年以内に責任組織に改正を要し、尚農林次官より地方長官に發せられた通牒によるも成べく組合の信用を擴大するため組合員をして出資せしめ無限責任か保證責任の結成方を奬めてありこれが實施期日も向後三年に繰り上げる通知も入つてゐる

ので同組合では去る四月二十三日開かれた臨時總會に於て右改組を議決したもので來月十日迄にこれを取纏めの上創立總會を開く筈であるが新組合の出資額は一口三十圓であると

地方一圓に漂ふ 明るい春繭景氣
最盛期は二十日前後

郡下の春繭は既報の如く近年稀なる順調な發況を辿り繭價も四圓臺の掛聲に勢ひ付いて萎微した蠶繭家は今や活氣横溢の態に愈々明後十五日開場の四倉、同十八日の植田兩市場でも夫々購繭資金の融通を受けるなど準備に忙しい、當局最近の調査にかゝる出廻見込數量出廻期間左の如く最盛季は大体二十日頃からである

區分	數量(千貫)	始期(日)	最盛	最終期
四倉	二〇	一五	二〇	二六
平	六四	一六	二二	二九
植田	一五	一八	二三	三〇
上遠野	二	二〇	二五	三
計	一〇	一五	自二〇至二五	三

田植始まる
昨日磐崎から

例年郡下のトップを切つてゐる磐崎村方部の田植は早くも昨十二日頃終了し、田人へは今十三日、澤渡は明十四日と山間部方面が早目に續々田植が初まつてゐる

柴山少將以下招宴
あす那珂入港の小名濱で

小名濱町では明十四日午後七時から軍艦那珂と共に來濱、同町に宿泊視察する橫須賀海軍人事部長柴山少將醍醐艦長並に將校を吉田屋別館に招き盛大な歡迎會を開く

四中等校野球組合
愈々明後日に迫る

同業磐城時報社後援の四中等學校(磐中、平商、安積、田村)野球リーグ戰は明後十五日から二日間磐中グランドで開くが組合せ左の如く決定

十五日午後二時 平商—安積

十六日午前八時 磐中—安積

同日午前十一時 平商—田村

同日午後二時 磐中—田村

如來寺新檀徒總代

四倉町如來寺の檀徒總代人の選擧は十一日執行當選者左の如し

佐藤仲 吉田彌十郎 植田萬次郎 吉田利右エ門 佐藤二 佐藤宇三郎 豐田耕作 桝木長三郎 佐藤榮喜 本多辰吉 佐藤佐一郎 鈴木幸平 渡湯留五郎 緒方金次郎 大河原福次郎

警戒季に入つた 衛生に氣を配れ
町役場から全町に注意

平町では今年に入つて早くも腸チフス十二名、猩紅熱十三名、疫痢二名、ヂフテリア二十七名(現在收容五名)を出し、愈々流行季に入つたので今十二日町內各區に左記注意書を配布した、尚各區の消毒用石油乳劑共同購入は來る二十五日迄申込まれたいと

一、蠅の驅除を圖り便壺を密閉し汚物類は其容器に必ず蓋をし蠅の出入を防止 二、果實魚介類其他生物の食用品に注意し煮沸した上食す 三、食器類の煮沸、肌着の洗濯寢具の日光消毒 四、惡寒發熱を感じ下痢嘔吐を催したる時は直に醫師の診療 五、萬一患者發生の場合は病院收容と看護者は患者及其衣類、接する都度手の消毒、汚物布片等は一定の場所に置き散亂せざる樣注意 六、塵芥類廢物等は一定の容器以外の地溝渠、路傍に放棄せぬ事

田中館博士來平

磐城高女山口教諭は過般來東北帝大講師田中館秀三氏との共同研究『東北人口問題』編纂中であるが、博士は明後十五日來平、山口教諭と打合せすると

需要薄季に當面して 石炭發送高赤字續く
今後どう推移するか? 憂鬱な數字
最近の統計が示す

さらでだに前年に比し過般來頓に減少の一途を辿り來つた常磐各山元の發送炭量は近來漸く夏枯れ需要薄の季に入り一層其の傾向が濃厚なるべく豫想されてゐたが、右觀測は不幸杞憂に終らずして、去る一日以降十日迄の發送高は

營業用二、八七九車 三四、七二五廸

省用九八一車 一二、五二一廸

合計三、八六〇車 四七、二四六廸

で前年同期に比し

(減差) 營業用六四一車 七、八三三廸 省用二八一車三、一八三廸 合計九二二車一一、〇一六廸

と云ふ著しい赤字を示したが、右の如く一旬間一日平均約百車千廸強を減少した事は近來全く稀有の事で今後益々最需要薄の季に入るに當り之が狀勢を以て推移すると今年月の減少は或は三千車三萬廸の厖大な數字を見せるではないかを危ぶまれてゐる

平町去月中絹織物生産高
平町役場調査

去月中の絹織物類生産高左の如く合計價格六百七十五圓

縮緬四二反三三六圓、羽二重一二反九六圓、生織絹及紗一〇反七五圓、銘仙及節織二一反七三圓、其他九五圓

ダニ狩りは進む

婦女誘拐の疑ひ
自稱勞農大衆黨員鈴木餘罪を追究さる

勞農大衆黨ヶ看板に恐喝し歩いた事實が判明し平署に擧げられた内郷村大字綴字堀内鈴木浦次(三四)は引續き留置取調べ中であるが昨日同署特高係官が同人の家宅搜査を行ひ婦女誘拐の連絡書類とおぼしき數十通の手紙其他を押收目下渡部司法主任係り取調べ中である

植田署のお尋ね者 湯本徘徊中捕はる
下請負業の根本寬

引續き暴力團狩りの手をゆるめない平署では昨十二日早朝植田署の指名手配により橫領、恐喝の嫌疑ある湯本町大字湯本字三函下請負業根本寬(四五)の行方を搜査中同日午後三時頃同町內を徘徊してゐるのを密行中の平署員が取押へ直に身柄を植田署に護送、平署の應援を終り昨日午後植田署に向つた縣刑事課下重警部補により取調中である

爪彈きされた 花街の暴君

破落戶永井の罪狀 既報—湯本町料理業玉の井駒木根捨次方に同僚數名と『酒を吞ませろ』と暴れ込み拒絶されるや器物類を片つ端から打ち毀して平署の暴力團狩りにかゝつた同町湯本字三函無職永井七太郎(四四)の取調べは同署渡部司法主任の手で今十三日一段落を告げたがその罪狀の主なるものを擧げると

無免許で去る一月十二日宮城縣鹽釜町料理業三好屋方酌婦佐藤カネ(二六)を湯本町三函料理業美好屋事上遠野武行方に前借五百八十三圓で周旋し手數料として十五圓。同二月中名古屋市料理業新開方酌婦武田榮子(一八)を前記三好屋へ世話して十五圓、去月下旬頃前記三好屋方酌婦鈴木キク(二八)を小名濱町橫町料理業福壽亭事橫川トメ方酌婦に住み込ませ十圓をせしめた外仲間數名と湯本町邊の料理屋を只飲みし歩き拒絶されると手當り次第亂暴し歩いた事實も判明した

胡瓜苗を摘む

平窪村大字中窪大和田源右工衛門(三七)は去月十二日夜乘ねてから仲惡るの同村中雞農大山忠平所有の胡瓜苗約百株を何れも根本から刈り取つた事發覺、昨十一日平署に檢擧された

要點を示して欲しい
其筋の希望に就て 渡部司法主任談

ダニ狩りに躍起となつてゐる平署では續々入つて來る投書等によつて新事實が漸次判明するので既檢擧者中の惡質のものはその儘留置取調べ中だが今十三日は更に三件の恐喝事件をかぎつけ目下刑事が某方面に活躍中であるが、右に關し同署渡部司法主任は

——投書の中には極めて抽象的で眞相の捕捉に苦しむものが少くないが、外部には決して迷惑を及ぼさぬから一歩進めた摑み處のある投書を望んでゐる

と語つてゐる、尚小名濱町の明神町立花美好(四八)は恐喝の嫌疑充分で引續き取調中である

郷土の史的時事解說(二)
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內擁安置五佛像國寶各指定に就て
勿來生 (六)

又世人傳曰、勸請德尼君於常盤大明神、勸請成衡公、熊野權現、今安置左右於兩社是也、又南百步有礎、稱曰故味堂、按鎌倉實記所載白水寶藏者是也、邑父老曰、我爲童子時、得毛髮於故味堂數有、之時人誰曰、德尼令德尼令、祝髮納有于今矣

行百步餘有巉岩、惡龍棲現鎮座之、里人傳曰、德尼本堂造營時勸請神也、又從是東行五十步餘有大樹、號勸請木南、行百步有靈蹤秀群高山也、數百年前壽山八集有純瑜僧正嘗憑大師夢想、所開基高野山是也、委見圓胤師護法錄(延壽山教王院藥王寺廿二世圓胤、延壽護法錄二冊、享保年中の著、歷代住職の略傳で、岩城氏に關係する正話、傳說が多い)及圓智大德所撰遍照光院記(本書の有無未照會につき不詳)、今厯繁文具不述、此山後有谷不知其行幾里、岩中彌勒菩薩在、稱彌勒澤、惟與南紀如合符節、然見聞者无不仰信從、此澤東萬有長谷、其景甚美、觀世音在、其濫觴未可知、父老傳曰、古昔從龍宮出現、此地長尺餘乃閻浮檀金、是故此方人雖多起、信致皈敬如雨、惜哉十有餘年前爲賊見奪今不存也、又從此谷來集起信者數十萬人邑俗士傳說去、是上古禪海大門阿闍梨所餓餓供養處、岩屋下東有關祝關神社北行半里許亦有岩屋、虛空藏菩薩在、從是至本堂亦行半里許、有白山權現及稻荷神祠、其餘社如不稱計矣、以是詳之、兵諸佛顯用之靈地、天神衛護之名藍也、誰不信用乎、故從古名德來此、七八(ヽ、)皆貴地宜也、況於凡士不可不信不可信(ヽ、)乎、餘雖不肖嘗試作此記、若未盡說、將來哲補闕而已矣

寶曆九年己卯六月廿六日

沙門釋智巖、謹識 (雜纂磐城誌料)

序いでに、當寺の名稱、門派、創立者、災厄、形狀、財產等に就いて、梗概を誌せておく

願成寺は阿彌陀堂を距る西三丁許の山麓にあり、比叡山延曆寺(天台宗)の直末にて、菩提山無量壽院願成寺、坊號を大坊と稱す

落磐兩犧牲者收容

昨十二日午前十時半頃入山炭礦第六坑內で落磐死亡した採炭夫二名の死體は溜水の流出で救助作業困難であつたが伊藤森(二三)は同夜六時頃、石上益太郎(四五)は今曉四時頃何れも死体を收容した

林業指導講習

濱三郡木炭同業組合の今年度新規事業たる双葉郡長塚村の木炭指導員養成所では現在約三十名の講習生に對し來二十三日から來月八日頃迄專門講師十二名を招き林業に關する講演を行つた上現地指導を行ふ事になつたと

理髪合格者

此程施行された縣理髪業試驗の四倉署管內合格者は左の如く全部合格

(四倉)古河彌左エ門方田部淺治、猪狩正男方峯左傳、佐藤慶次郎方高梨義政、菜花梅七方松田伊佐男

磐炭入山試掘許可

入山採炭の出願の湯本町、磐崎村に跨る三十二萬三千坪、磐炭出願の錦、勿來兩村七十萬二千百坪泉村、植田町九十萬四千坪同八十九萬七千坪の石炭試掘は何れも此程許可になつた

田町側溝着工 平町

大田町地內町道(平驛貨物倉庫前より役場前に至る北側=延長一六八間)の測溝工事は工費約七百圓で愈々昨十二日から着工したが該工事は明年度施行する同地內舗裝の前提工事となるものであると

平青果物組合認可申請

平青果物商業組合は過般の創立總會に於て定疑並に市場業務規定等を承認、役員を左の如く選任し直に認可を申請したが愈々近く認可されると

(理事)鈴木與一、片寄敬太郎、藤居勝武、鷺谷三郎、廣木正一、國井一美 高子敬藏 (監事)古川四郎、矢田部力

他縣校長視察

岩手縣下閉伊郡崎山村小學校長畠山松助氏は十一日より三日間に亘り四倉小學校並、築港等を視察した

放火檢証

双葉郡木戶村大字山田濱字後中大工職松本好次郎(四五)が二月二十日夜醉餘弟八郎の妻の仕打ちが憎いと八郎方軒下風呂桶上の莚に放火した事件は十三日平支部で中島裁判長係り、小林、香西兩判事陪席、濟田檢事關與公判開廷したが、明後十五、六の兩日實地檢證に赴くと

第二校外指導

平第二校は今十三日午前十時から左記校外指導を行つた

尋一、二—御台境、公園 三、四—權現山、五、六—一ノ矢大神、高一、二—神谷農試分場

古物商營業禁止

川前村川前生れ樺太豐原町居住古物商佐藤武好(四二)は過般贓物故買の廉で罰金刑に處せられたが、故買常習發覺して此程樺太廳より營業禁止を命ぜられた

轉落重傷

永戶村大字下永井字中根小玉川第二發電所雇員佐藤七郎(三八)は去る十日午前十時頃セメント運搬作業中誤つて同村扇機橋から轉落頭部其他に全治一ケ月の重傷を負つた

出漁中大怪我

双葉郡久の濱町漁夫紋波龜三(五〇)は去る八日午後四時頃同町江の網二哩の沖合で底曳網漁撈中、卷網にはね飛ばされ肺臓挫創を惹起し右肋骨二枚を折り目下平町上田醫院で加療中だが生命危篤

コックの舊惡

平町田町コンパル事高橋松三方コック宮城縣刈田郡 市村鶴吉長男八巻利吉(三七)は昨年十一月同郡大內村大發山內利吉(三五)と稱し大沼郡高田町料理業某方に雇はれ中掛代金百餘圓を橫領逃走した事此程高橋からの屆入屆により平署から所轄白石署の手で身元調査の結果該當者ないとの回答あり取調の結果前記の舊惡が曝け出された

十四日

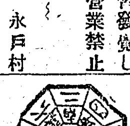
(小名濱測候所調查)

日出 四、二〇 月出後 四、二七

日沒 六、五三 月沒前 一、四三

滿潮 前〇、三五 後三、四〇

干潮 前八、三五 後八、三〇



舊五月十四日 金曜 辛酉 赤口 平 婁宿

新六月十四日

6月14日

△諸國に錦綾織法を敎ゆ(和銅四)△毛利元就歿す(元龜二)△滿洲國金輸禁法公布(昭和八)△ムッソリーニ、ヒットラー會見(同九)

諸判定鑑 東京市本郷區湯島四ノ一目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 多端の日なれども秩序正しければ發展あり▲二黑 移り氣と口を愼しみて奮闘すれば大吉と成る▲三碧 志を堅くし精根の限り働けば失ふ事なし▲四綠 不言實行の日根氣足らざれば災に見舞はる▲五黃 正路をふんで進めば益々と發展し行くべし▲六白 樂々と伸び行く日なり名弘め開店何れも吉▲七赤 自負心を生ずる時は德望事業共に失墜す▲八白 益々と發展し行く幸運日新規事業ともに吉し▲九紫 人の事に口を出す時は爭か背負ひ込むべし

遊覽團体募集

(日歸ノ部)

一、柳津虛空藏尊 (猪苗代湖、東山 白虎隊廻リ)
出發—六月二十日午前三時
會費往復自動車賃—二圓也

一、日光 (笠間稻荷樣廻、日光 六時間休憩)
出發期日—六月十六日午前一時
會費往復自動車賃—二圓五十錢也

(一泊ノ部)

一、古峰原樣參詣、日光參拜一泊、東京市內各所遊覽
出發—六月二十五日午前四時
〆切—期日六月二十四日
會費—六圓也 但シ晝食二回宿泊料ヲ含ム

各車共定員二十二名、定員未滿ノ節ハ勝手乍ラ延期致ス事モアリマス。
其他希望ノ各種團体ニモ應ジマス。

尼子自動車遊覽部
電 六四〇番